

令和6年度グランドデザインに掲げました重点目標等における取組について、「学校教育に関するアンケート」等を資料として、教職員による学校の「自己評価」を行いました。その結果を分析とともにお知らせいたします。

【自他の存在の尊重】

評価項目	評価指標	4段階評価	分 析
いじめ防止等の心の教育	いじめのない学級・学校づくりを目指し、いじめ防止に向けた指導や活動を行う。	3. 6	児童アンケートの結果から、児童の学校生活に対する満足度は高いことがうかがえます。また、「あいさつの励行」については、毎月第1週の週目標をあいさつに関わるものとしたことで、あいさつに対する意識を教職員・児童とも継続することができました。「異学年と協働する集団活動」については、ペア学年活動の機会が、朝の時間、遠足、作品展鑑賞など、限定的になってしまいました。来年度は、学級活動の時間も活用して充実を図っていきます。
命を大切にすることの育成	自己有用感を高め、命を大切にする心を育てる。	3. 6	
居心地のよい学級づくり	安心でき、自己存在感や充実感を感じられる学級づくりを行う。	3. 5	
異学年と協働する集団活動	ペア学年活動の充実を図る。	3. 3	
あいさつの励行	あいさつを習慣化できるように指導や活動を行う。	3. 6	

【主体的な学びの実現】

評価項目	評価指標	4段階評価	分 析
個別最適な学びの充実	指導方法を工夫改善し、個に応じた指導（指導の個別化と学習の個性化）の充実を図る。	3. 3	児童アンケートの結果から、児童は授業を楽しんでいる一方、授業で勉強した内容の理解について自信がないようです。学習内容の理解が深まるよう、指導方法をより一層工夫改善し、個に応じた指導の充実を図っていきます。保護者アンケートの結果から、キャリア教育への期待が高いことがうかがえます。千種中学校のキャリアナビゲーターと連携し、これまで取り組んできた各教科や総合的な学習の時間の学習活動をキャリア教育の視点から見直し、体系的な指導としてキャリア教育の推進を図っていきます。
協働的な学びの充実	児童同士が教え合い、学び合う協働的な学びの充実を図る。	3. 6	
体験的な活動の充実	実習や実験などのリアルな体験を通じて学ぶ体験的な活動の充実を図る。	3. 4	
キャリア教育の推進	自分らしい生き方を見いだすための力の育成を図る。	3. 0	
I C Tの効果的な活用	学習者用タブレット端末を効果的に活用する。	3. 5	

【健全な心身の育成】

評価項目	評価指標	4段階評価	分 析
主体的な体力づくり	進んで体を動かすようなしくみづくりや環境整備に取り組む。	3. 5	アンケートの結果から、保護者は学校の相談体制は整っていると感じている一方で、悩みや困ったことを先生やスクールカウンセラーに相談できる児童は66%にとどまっています。年2回、先生と児童が個別に話すふれあい懇談を、加えて4～6年生はスクールカウンセラーとの個別面談を実施しています。これらの相談体制を継続していくとともに、児童のS O Sを早期発見できるよう、これまで4～6年生に実施していた学校生活アンケートを、3年生にも実施する予定です。
継続的な体力づくり	体力づくりに効果のある運動を、体育の授業で継続的に行う。	3. 1	
相談体制の整備	相談につなぐ体制を整備するとともに相談活動を充実する。	3. 6	
望ましい生活習慣の形成	感染症の予防と自ら健康管理ができるような望ましい生活習慣の形成を図る。	3. 1	
情報モラル教育の推進	I C Tの正しい活用の仕方を指導する。	3. 6	

【家庭との連携】

評価項目	評価指標	4段階評価	分 析
学校の様子が分かる情報提供	学校の様子が分かる情報を提供する。	3. 4	保護者アンケートの結果から、学校からの情報提供や学校の公開が適切であったことがうかがえます。毎月電子配信する各種たよりは、確実にご家庭に届き、行事や児童の様子、学校の取り組みをお伝えすることができました。また、電子配信により、鮮明なカラー写真等で学校の様子をお伝えできたことも、高い評価につながったと考えます。児童がICTを活用する機会が増えています。家庭と連携して情報モラル教育に取り組んでいきます。
開かれた学校	学校の様子を公開する機会を適切に設ける。	3. 7	
ICTを活用した情報提供	学校からの情報を、ICTを活用してデジタルデータで提供する。	3. 6	
情報モラル教育の連携	家庭と協力して情報モラル教育に取り組む。	3. 3	

【働き方改革・教員の資質向上】

評価項目	評価指標	4段階評価	分 析
協働的な働き方の推進	チーム学校・学年を意識し、校務分掌や学年分掌の協働化に取り組む。	3. 5	教職員の長時間勤務を縮減するとともに、児童に向き合う時間を増やせるよう、業務の協働・業務の改善に取り組みました。家庭や地域の協力を得て、一歩ずつ確実に進みつつあります。今後も、教職員の声を聞き、家庭や地域の理解を得ながら、協働的な働き方の推進・業務改善の推進に取り組んでいきます。また、教員の授業力の向上・資質の向上に向け、校内研修を実施するとともに、校外研修を奨励していきたいと考えます。
業務改善の推進	業務における課題を見だし、児童・教員にとってよりよい業務や改善となるよう取り組む。	3. 4	
授業力の向上	授業を参観することで、授業力の向上を図る。		
資質の向上	研修・研鑽に励み、資質の向上を図る。	3. 2	

【学校努力点】

評価項目	評価指標	4段階評価	分 析
漢字を含む語彙力の向上	漢字や様々な言葉にふれる活動を行う。	3. 8	昨年度から、「高めよう ことばの力」をテーマに、各学年が工夫して漢字や言葉の学習に取り組み、定着・活用を目指してきました。アンケートの結果から、児童が漢字や言葉の学習に頑張っており、保護者には十分に伝わっていないことがうかがえます。各種たよりや授業参観等で、保護者が学校努力点の取り組みを目にする機会が少なかったことが考えられます。学校努力点の取り組みの情報発信について、仕方や回数などを見直していきます。
漢字力の向上	進んで漢字学習に取り組む機会を設ける。	3. 6	
文書を書く力の向上	行事等の後、心境を記録する活動を行う。	3. 7	

《学校関係者評価委員会より》

学校努力点の取組について、「他人と競うのではなく自身の成長を振り返る自己評価を行ったことはよかった。学校の取組や成果が保護者に十分に伝わるようにしてほしい。」というご意見をいただきました。今後は、児童が活動している様子を保護者に参観してもらったり、たより等で積極的に情報発信を行ったりしていきたいと考えています。また、教員が児童一人一人に向き合う時間を確保するために、働き方改革を進めていくことの大切さをご指摘いただきました。家庭や地域の理解を得ながら、取り組んでいきます。